

令和 8 年度 第 1 回清瀬市男女平等推進委員会 議事録

日 時：令和 8 年 5 月 25 日（月） 午前 9 時半～正午

会 場：男女共同参画センター 会議室 1・2

出席者：佐藤副委員長、榎並委員、高橋委員、田村委員、
豊田委員、福田委員、前川委員、渡辺委員

※副委員長以下、50 音順

欠席者：橋本委員長、鈴木委員、柿沼委員

※委員長長期不在のため了承の元開催とした。

事務局：地域振興部 男女共同参画センター

◎⇒委員からの発言

1 新任委員および職員紹介

商工会の人事異動に伴い芦澤委員が退任し、新任委員として、商工会の柿沼委員が着任した。

職員の人事異動に伴い、令和 7 年度末に、当委員会担当職員が異動した。

令和 8 年 4 月清瀬市男女共同参画センター長に杉山 晶子が着任した。

2 議題

(1)昨年度までの振り返り

昨年度までの会議で令和 5～6 年度の評価について委員コメントを整理し、目標 1～3 の中間見直しのまとめと、目標 2「人権の尊重とあらゆる暴力の防止」についてまとめた。

本来であれば、目標 2 の中間見直しを進めるが、第 3 次プランの残る中間見直しを単独で行うのではなく、現在進行中の第 4 次プラン策定プロセスに統合し、同時並行で進めるのはいかがでしょうか、事務局より提案あり。これに対し、委員より同意得られる。

(2)スケジュール案確認

令和 8 年度は年 4 回から 5 回の委員会開催を予定する。令和 8～9 年度は第 3 次プランの評価と、第 4 次プランの策定を同時進行で進める予定である。

(3)令和 5～6 年度の評価の確認

昨年度の委員会にて委員コメントはできているものの例年の評価を考慮して、追加が望ましいとの指摘もあったため、追加必要性について検討した。

ア評価の質と方法論に関する課題

◎一般の企業では 10 年の計画を作ってもマイルストーンは 3 年程度で作る。現状の市の計画だと、女性管理職や女性の登用も進んでおらず、毎年同じことをやっているように感じる。次期プランの参考に他市のプランも見ているが、それぞれの良さや課題が見えてくる。良い部分は参考にできると良いのではないかな。

◎各課が調査の趣旨を十分に理解していないのではないかな。評価の客観性や各担当課へのジェンダー視点浸透の不足が散見される。

◎通常の業務のグレードアップしたものが男女平等に即したもののなのか注意が必要である。新しい事業を実施するとA評価になっているようだ。ガバナンスではなくマネジメントされる側の意識の問題ではないか。

◎各課に調査の趣旨が伝わっていないと感じる。調査をする際に説明が必要なのではないか。

◎評価票の記入者（係長など）への研修などが必要ではないか。

◎第3次プランの目標、施策は事業レベルまで行くと何百もあり数が多く、評価できない部分もあるため、第4次プランでは同じことを繰り返してはいけないと感じる。清瀬市の第5次長期総合計画も10年の計画だが、同様に毎年評価をするのだろうか。

自身が関わる別の委員会では2年続けて男性委員長である。この委員会も含めて、内部でも認識を持つ必要がある。

事務局

各課に調査をかける際、説明会を実施したこともある。新入職員には研修も行っており、質問に対しては適した内容を回答している。

第5次長期総合計画においても行政評価委員会があり、外部評価があり毎年評価は実施している。また実行計画においてもローリングし、評価をしているが、委員ご指摘のように評価に課題があると認識しているため次回の委員会で深めていきたい。

イ 具体的な評価へのコメント追加、修正箇所について

コメントについては以下のような検討がなされ、該当箇所を追加、修正した。

◎女性管理職の割合は30%を目指す、等具体的な記載が必要ではないか。

◎学校との連携について「学校におけるDV被害者の子どもに対する教育委員会との連携はとれている。」を「とれていることを期待する。」にしてみよう。「親がパートナーから被害を受けた際の対応について、いちばん身近な学校が理解しようと努めていることを評価する。」と記載してみよう。

◎潜在的DV被害者へのアプローチや差別・困難状況の把握と関連部署との連携が必要である。

◎高齢者のデジタルデバインド対策、単身高齢女性の貧困やなど、より個別具体的に踏み込んだ支援の必要性がある。

◎市の職員であればどの部署でもDV被害者の対応の可能性がある。新入職員だけでなく多くの職員に研修が必要である。

◎児童センターにおける子どもへの性暴力被害対応については職員個人の意識や能力に依存しすぎず、実績の数値化や体系化が求められる。

◎図書館には女性の利用者が多いと推測されるが、図書館協議会委員には女性委員が少ない現状がある。児童書の配置等に工夫するなどして、広報だけでなく「女性団体・グループへの積極的な働きかけ」による委員推薦の必要性がある。

事務局より

委員コメント内に「ジェンダー統計が必要である」と記載されている箇所があるが、ジェンダー統計は特定の箇所だけでなく全ての政策評価に不可欠なため、コメントからは削除してはどうか、との提案を受け、委員検討の結果、削除した。

(4) 総論確認

本日の追加案を踏まえて橋本委員長が総論を完成させる。

(5) 第4次プラン策定に向けて

令和8～9年度の2か年で策定する。令和8年度は市民および企業への実態調査や分析を行う。委員には次回の委員会で実態調査の調査票の確認をお願いしたい。

◎調査票内容は大幅に変更されることはあるのか。

事務局

第3次プランが基盤となるため、大幅な変更にはならない。

次回 令和8年8月中に開催予定。

以上